第３回 小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会
まちづくり部会・新交通システム部会（合同会議）

議事要旨

日　時：平成 28 年 3 月 29 日（火）13:30～15:30
会　場：まちなか交流センターおやま～る　研修室
出席者：23 名出席、2 名欠席

１．第２回検討委員会（合同会議）の意見確認

✧　特に意見はなく、承認された。

２．まちづくり検討の今年度最終報告

委員長：古河電工が戦前に当地区に進出し通信技術が発展したように、古河電工の引込線があったことが戦後の工場誘致にも貢献したと考えられる。歴史的な流れの中で当地区の次のステップを考えると、電気やエネルギー産業がテーマの一つに浮かび上がる。今後は、地域資産としてストックされた高岳引込線を単に物流としてではなく、市民の生活や交流の場として有効活用していくコンセプトがみえてくるのでないか。渡良瀬遊水地は、当初は治水や鉱毒対策の目的で整備されたが、その後は多くの人が利用できる空間となり、環境面ではラムサール条約湿地にも登録されるなどした。高岳引込線でも同様の展開がみえてくる。

豊川　：公害に象徴される工場のネガティブイメージを転換したい。まちづくり部会でもコンセプトを
副委員長　練り上げていきたい。

３．新交通システム検討の今年度最終報告

委員長：東光高岳は高岳引込線を年に 10 回程度使用しているとのことだが、運行日時はどのくらい前にわかるのか。

A 委員：1 週間以上前から周知している。

A 委員：貨物は現状通り運行できるのか。

事務局：現状通り貨物が運行できることが前提である。

B 委員：ヨーロッパでは線路と道路がフラットになっていて、LRT の電停で待っていると連結バスが乗り入れてくる。BRT は対象としないとあるが、今ある線路を BRT も走行できる構造にできれば、活用の可能性が広がると思う。LRT とバスが共同できるシステムができないか。

事務局：今ある線路を使うため、BRT は対象としないとした。当地区の難しいところは、鉄道法の線路である既存の貨物線を旅客に活用することである。BRT を排除することではなく、鉄道としての貨物線を利用することが条件である。フランスなどでも BRT が導入されているが、現段階では貨物線を活かすことを考えたい。

３．新たな交通システムの課題について

C 委員：新たな交通システムと現在のコミュニティバスを比較した場合、定時制は心配していないが、単線となった場合に速達性の確保が課題である。

C 委員：基本的考え方のなかに、バス＆ライドを加えてしてほしい。新たな交通システムを利用しない

方や直接関係のない方も納得できるような交通ネットワークに配慮してほしい。

事務局：ご意見を踏まえて次年度以降の検討を進めていく。

委員長：通常は交通需要に応じたシステムを考えるが、新たな交通が土地利用にインパクトを与え誘導することを考慮し、安いコストで始めて早く走らせ段階的に高度化していく方法もある。宇都宮の釜川は二重河川として整備され、以前は商店街の裏側だったが、10 年経過して今では川沿いにワインバー等ができて特色のあるまちになった。線的なインフラストラクチュアが整備されて沿道の土地利用に変化が現れるのには年月がかかる。動的にプロセスを考えることも大切である。

C 委員：富山ライトレールは一日に何本も走らせたらまちが活性化した。北九州市のモノレールも、定時制や速達性が魅力となって予想以上の乗降客を記録している。沖縄モノレールも延伸する計画と聞いている。旅客の鉄道を導入することでまちが活性化した事例を調べてほしい。

C 委員：富山のライトレールはバスとの乗り換えがしやすいように工夫しており、当地区でも参考にできるのではないか。

D 委員：路面電車のように車も走行できるようにできないのか。LRT になると車の通行を停めることになるが、BRT であればバスが停まり車の通行に弊害が出ないのではないか。

事務局：路面電車のようにするためには軌道法で底地を道路にする必要がある。車の走行への影響については LRT も BRT も同じである。

事務局：誰がどれくらい新交通に乗るのかを明確にする必要がある。新交通導入の波及効果はあるとしても、最低限の採算性が成り立たないと事業化を認めてもらえないことから、運賃収入でランニングコストをどの程度まかなえるかの目途は立てたい。

委員長：需要については、どのくらいコストを下げられるかにも関係する。貨物線の旅客化は他に事例・がない。現在の貨物の維持が前提となるが、コストを考えてどのような方法が最適か検討していく必要がある。

C 委員：貨物が道路の上を走るにしろ線路の上を走るにしろ、安全性を評価指標に入れるべき。

E 委員：需要を見極めていく段階にきている。LRT にしろ BRT にしろ、概算費用や費用対効果がどのようになるのか検討する必要がある。

事務局：来年度検討していく。

委員長：箱根鉄道はあじさいで有名であるが、沿線を公園や緑の空間として活用することも考えられる。

F 委員：すでに魅力的な家庭菜園空間のようになっている場所もある。
需要予測の際には、住民にアンケートをして意見を聴いてほしい。自治会としても協力したい。

４．その他

✧ 小山市と小山高専の連携協定事業により、高岳引込線に新交通が走行した時に見える風景を再現した CG を豊川先生と学生が作成した。スクリーンで CG を上映して確認した。

以　上